

研究課題名「実践ガイドラインを用いた周術期抗菌薬の適正化への取り組み」に関する情報公開

1. 研究の対象

2014年8月1日から2014年8月31日、および2016年8月1日から2016年8月31日に当院で手術を受けられ、手術1か月以内に抗菌薬の投与歴がない投与時の年齢が16歳以上の方。

2. 研究目的・方法

研究目的

これまで日本における周術期抗菌薬の使用に関するガイドラインは、術式ごとの抗菌薬の選択や投与期間が曖昧でした。また、海外において作成されたガイドラインでは、日本の術式とは異なる場合があります。全てを適応させることが困難でした。この状況に対し、日本における周術期抗菌薬の適正使用を促進させる目的で日本外科感染症学会と日本化学療法学会が「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」(以下、実践ガイドライン)を作成することとなり、2016年4月に正式に公開されました。日本で行われている各術式について、抗菌薬の選択や投与期間が記載されています。実践ガイドラインに推奨されていない抗菌薬を選択されたり、実践ガイドラインが推奨している投与期間よりも長く抗菌薬が投与されると、抗菌薬の耐性化リスクや費用対効果の面で問題があります。そこで本研究では、実践ガイドライン前後でのガイドライン適合率を比較し、現状における問題点を調査することを目的とします。

研究方法

2014年8月1日から2014年8月31日、および2016年8月1日から2016年8月31日に当院で手術を受けられ、手術1か月以内に抗菌薬の投与歴がない投与時の年齢が16歳以上の方を対象に生体情報管理システムでガイドライン適合率を調査します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、診療科、手術開始前の身長・体重・臨床検査値(血清クレアチニン値)、診断名、手術日、術式、周術期における使用抗菌薬、術前抗菌薬投与のタイミング、術中抗菌薬投与間隔、抗菌薬の1回投与量、術後抗菌薬の投与期間、手術時の出血量等

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65 電話：052-741-2674

担当者：名古屋大学医学部附属病院薬剤部 稲垣 孝行

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院薬剤部 山田 清文